

科学技術政策の中のオープンアクセス ～遥かなるEBPMへの道～

岩手県立大学

杉谷和哉

2025年6月6日 於：ビジョンセンター東京八重洲

自己紹介

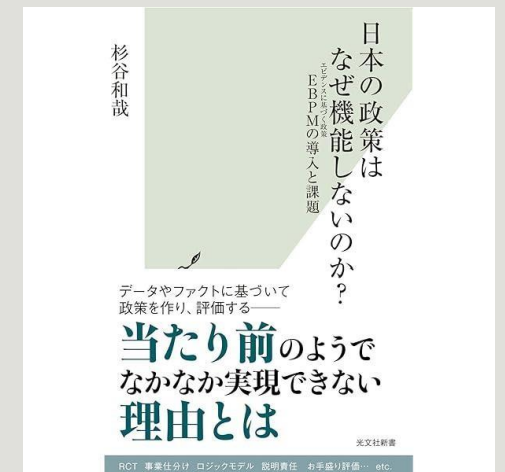
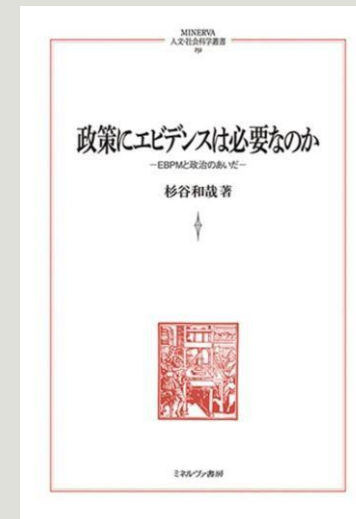
1990年大阪府生まれ。

京都府立大学公共政策学部卒業。

京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程研究指導認定退学。博士(人間・環境学)。

岩手県立大学総合政策学部准教授。

主著『政策にエビデンスは必要なのか』



最近の仕事

第8回 RIETI EBPMシンポジウム

**EBPMの
実践・実装
のために**

2/6
13:30-17:30

《オンライン同時配信》 《参加費無料》
イノホール&カンファレンスセンター
東京都千代田区内幸町2-1-1 飯野ビル4F

13:30	開会挨拶	13:30	パネルディスカッション「セッション1」EBPMの現状
13:35	開会挨拶	13:35	内田 博
13:40	開会挨拶	13:40	山口 大樹
13:45	開会挨拶	13:45	山口 大樹
13:50	開会挨拶	13:50	山口 大樹
13:55	開会挨拶	13:55	山口 大樹
14:00	開会挨拶	14:00	山口 大樹
14:05	開会挨拶	14:05	山口 大樹
14:10	開会挨拶	14:10	山口 大樹
14:15	開会挨拶	14:15	山口 大樹
14:20	開会挨拶	14:20	山口 大樹
14:25	開会挨拶	14:25	山口 大樹
14:30	開会挨拶	14:30	山口 大樹
14:35	開会挨拶	14:35	山口 大樹
14:40	開会挨拶	14:40	山口 大樹
14:45	開会挨拶	14:45	山口 大樹
14:50	開会挨拶	14:50	山口 大樹
14:55	開会挨拶	14:55	山口 大樹
15:00	開会挨拶	15:00	山口 大樹

主催
独立行政法人経済産業研究所(RIETI)

シンポジウム参加のお申し込み・お問い合わせは
下記URL、またはQRコードから

<https://www.rieti.go.jp/jp/events/25020601/info.html>

RIETI

岩手県立大学 データサイエンス・リカレント講座 基礎編②

**Evidence-Based
Policy Making**

オンライン併催
受講料無料

**EBPM初級
コース**

岩手県立大学
総合政策学部
杉谷和哉講師



AtoBtoC 知のエンタメトーク

角田陽一郎 × 杉谷和哉

パネリスト・モデレーター

トークテーマA
公共政策学とは何か: inの知識とofの知識



日本の政策は
なぜ機能しないのか？

オンライン講座



紀伊國屋書店
×
光文社新書ビジネス講座

ETHICAL,
LEGAL AND
SOCIAL
ISSUES

ELSI入門
先端科学技術と社会の諸相

カテライ アメリア・鹿野祐介・標葉隆馬 (編)

丸善出版



本日の内容

- ・科学技術政策におけるオープンアクセス
 - ⇒現状の政策ガバナンスを概説
 - ⇒オープンアクセスを位置づける
 - ⇒EBPMに繋げるには何が必要か？
 - ⇒知識や研究は我々の社会をよくするのか

科学技術政策の展開と現状

科学技術政策の展開

年代	内容
1956～1994年	●科学技術庁による科学技術政策の拡大 原子力以外の「ビッグサイエンス」についての拡大 司令塔としての「科学技術会議」の設置 新しい研究開発支援システムの構築
1995～2004年	●科学技術基本法の制定と総合科学技術会議の設立 「科学技術基本法」の制定 文部科学省の誕生（文部省と科学技術庁の統合） 「総合科学技術会議」の成立
2005～2020年	●科学技術イノベーション政策への展開 第三期科学技術基本計画における「イノベーション」概念の登場 「総合科学技術会議」の「総合科学技術・イノベーション会議」（CSTI）への改称

科学技術政策のガバナンスの特徴

- ・CSTIが有する「司令塔機能」
 - ⇒行政改革の流れにおけるトップダウン強化
- ・内閣府に設置された「総合科学技術・イノベーション会議」
 - ⇒重要政策分野として認知

科学技術政策のガバナンスの課題 —「司令塔」の乱立

	総合科学技術・イノベーション会議	宇宙政策委員会	原子力委員会	健康・医療戦略推進本部	知的財産戦略本部
組織	「重要政策に関する会議」(内閣府)	内閣府の審議会	内閣府の審議会	閣議決定に基づく本部	法律に基づく本部
構成	・内閣総理大臣(議長) ・関連省庁の長 ・有識者	・有識者による委員長／委員	・有識者による委員長／委員	・内閣総理大臣(本部長) ・全ての国務大臣	・内閣総理大臣(本部長) ・全ての国務大臣 ・有識者による委員

(出所)榎(2013)をもとに筆者作成

科学技術政策ガバナンスの課題

- ・「司令塔」の乱立

- ⇒かえってガバナンス不全に陥る

- ⇒「目玉分野」がCSTIから骨抜きになる

- ・NPM（新公共経営）の浸透

- ⇒「成果主義」を生むためのマネジメント改善

- ⇒短期的な成果への注目、研究力低下に繋がる

科学技術政策の中の オープンアクセス

日本の政策における オープンアクセスの基本理念

『学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針』

- 一) 公的資金によって生み出された研究成果を広く国民に還元するとともに、その共有・公開を通じて自由な利活用を図り、科学技術、イノベーションの創出及び地球規模課題の解決に貢献すること
- 二) 大学及び大学共同利用機関における利用可能な雑誌数や論文発表数を減らすことなく、かつ、研究活動に負の影響を与えることなく、我が国全体での購読料及びオープンアクセス掲載公開料を含む経済的負担を適正化すること
- 三) 我が国の研究力を踏まえた世界に対する研究成果の発信力向上を図ること

「統合イノベーション戦略推進会議」

・「統合イノベーション戦略」(平成30年6月15日閣議決定)に基づき、イノベーションに関連が深い司令塔会議である総合科学技術・イノベーション会議、デジタル社会推進会議、知的財産戦略本部、健康・医療戦略推進本部、宇宙開発戦略本部及び総合海洋政策本部並びに地理空間情報活用推進会議について、横断的かつ実質的な調整を図るとともに、同戦略を推進するため、内閣に統合イノベーション戦略推進会議(以下「会議」という。)を設置する。」

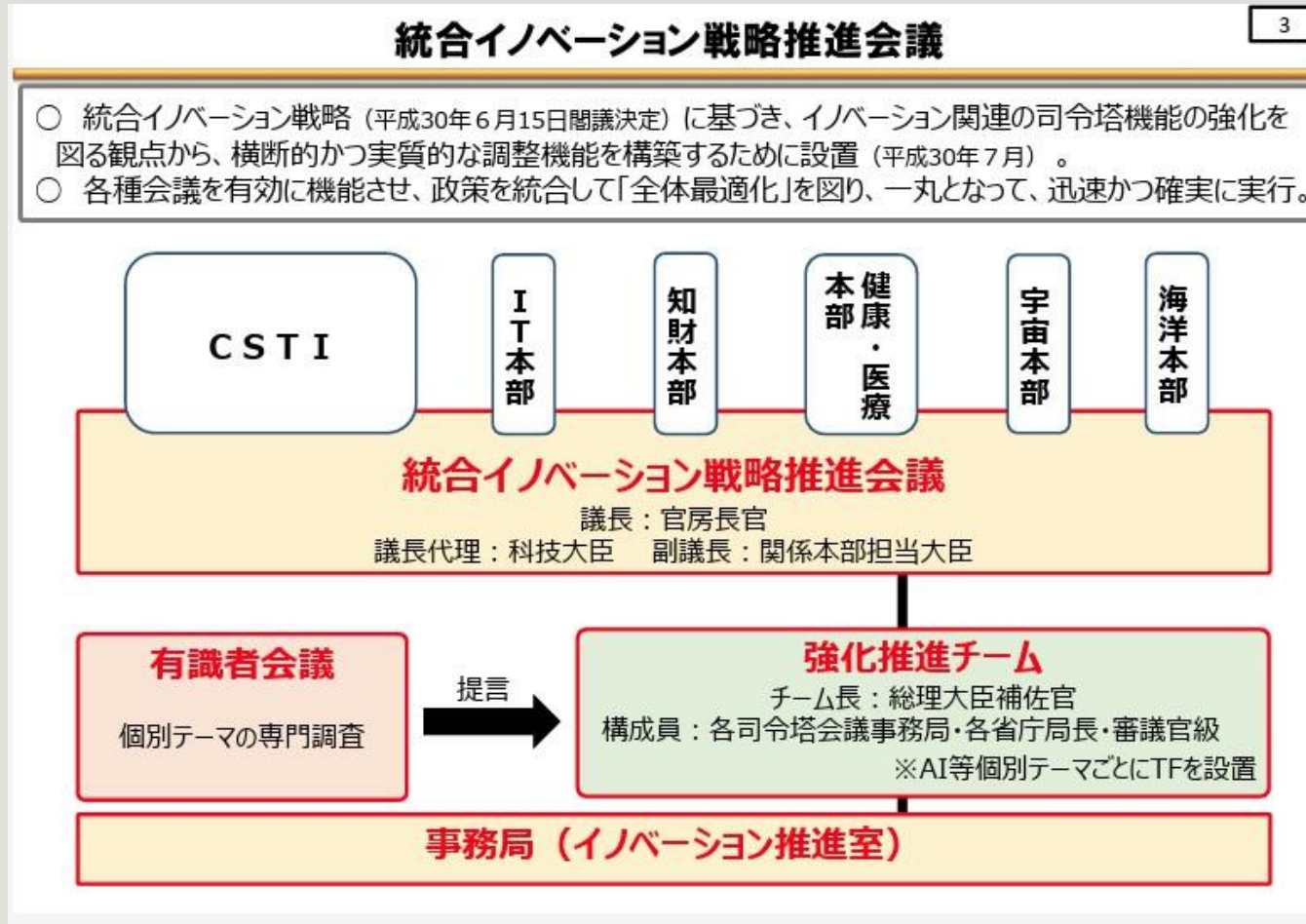
(出典)『統合イノベーション戦略推進会議の設置について』(2021年4月1日内閣総理大臣決裁、同9月1日一部改正)

「統合イノベーション戦略推進会議」とは

- ・2018年閣議決定の「統合イノベーション戦略」
 - ⇒「横断的かつ実質的な調整・推進機能を構築する」
 - ⇒「学術研究に係るオープンサイエンスを推進するとともに、EBPMを進めるための仕組みの導入するとした」
 - ⇒『第五期科学技術基本計画』における言及を繰り返す

(参考)内閣府(2018)

位置づけ



「統合イノベーション戦略」としての オープンアクセス

- ・イノベーションの基盤となる「知の源泉」
 - ⇒ 科学技術に限らない社会への波及
 - ⇒ 「Society5.0」実現に資する方途の一つ
- ・高騰するジャーナル購読料への支援等
 - ⇒ 国際的協調路線としての取り組み
 - ⇒ 公的資金で行われる研究成果の社会的還元

(参考)内閣府(2024)

日本の科学技術政策における オープンアクセス

- 「統合イノベーション戦略」の一環として提示
 - ⇒「オープンサイエンス」の理念
 - ⇒多くの人が科学的知識へアクセスできることの利点
- 『第五期科学技術基本計画』におけるEBPM
 - ⇒「統合イノベーション戦略」にも引き継がれている

オープンアクセスとEBPM

EBPMにとっての好条件

- ・データの公開

- ⇒研究者がデータを「勝手に」解析してくれる

- ⇒真新しいデータと政策効果の分析でWin-Win

- ・研究論文の公開

- ⇒「先行研究」を調べるのは政策リサーチの基本

- ⇒自治体職員らが幅広くアクセスできる状態が好ましい

「日本語文献」の意義

- ・政策担当者が参考にしたいのは「日本語」の文献
 - ⇒英語の先行研究を読むのは大変
 - ⇒知りたいのは日本の事例
 - ⇒日本在住の研究者で協力してくれそうな人
- ・市民が論文を読む意義
 - ⇒市井の人々による「研究」、「調査」の重要性

研究者と政策の同床異夢

- ・研究者の研究は政策の役に立つのか？
 - ⇒研究者の社会貢献は評価されるか？
 - ⇒「研究成果」がどれだけ政策に活用されるか
 - ⇒評価測定が難しい、どの程度活用されればよい？
- ・「データ提供」を求める研究者
 - ⇒コミュニケーションの失敗で関係がこじれる事例も

「灰色文献」

- ・「商業出版や学術出版のルートに乗らない文献」
 - ⇒EBPMとしてどう見るべきか？
 - ⇒知られていない貴重なデータやケースがあることも
 - ⇒それらの解析による政策評価も進んでいる
- ・クオリティ・コントロールに課題
 - ⇒未査読で質の低い研究もあり、見分ける必要がある

Predatory Journal (粗悪な学術誌)

- ・掲載料を払えば誰でも掲載できる
 - ⇒業績を稼ぎたい人々の需要を満たすビジネス
- ・何が粗悪で何が粗悪でないか？
 - ⇒しばしば論争的、明確な基準の設定も難しい面がある
- ・政策の根拠として使われることの問題
 - ⇒「論文だが信用がおけない」ものをどう扱うか

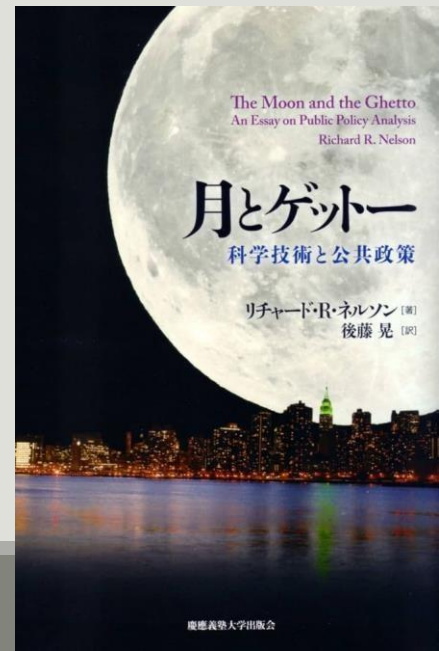
EBPM推進で考えるべきこと

- ・研究と政策の間のギャップ
 - ⇒埋める努力をしてきてはいるが...
 - ⇒関心、時間、評価軸などの違い
- ・質の低い研究を政策に使うべきではない？
 - ⇒「思い付き」や「勘」よりはマシだろうか
 - ⇒「よい研究」を見分ける眼が必要

知識は我々の社会をよくするのか

科学と政策の「ギャップ」

- ・「我々は月に人を送り込めるのに何故、ゲットー（貧民街）の問題を解決できないのか？」
- ・科学技術の発展のように社会問題の解決はうまくいかない
⇒社会における不確実性、予想通りいかないこと
例)「エビデンス」における「内的／外的妥当性」
⇒あらゆる不確実な要因を網羅することは不可能



専門性と政治／政策

専門家の言うことを聞かない政治

⇒排除した専門家支配の方がいい？

⇒専門知軽視の社会への批判

「テクノクラシー」への憧憬

⇒民主主義と専門性についての更なる考察



「マクナマラの誤謬」

- ・ベトナム戦争を指揮したR.マクナマラ
- ・数字の天才、マネジメントに秀でる
- ・国防省トップとしてベトナム戦争を指揮
- ・なぜベトナムで勝てなかったのか？

ベトナム戦争の「業績管理」

私はハーバードの大学院時代以来、一つのルールに従ってやってきました。ある目的と、それをやり遂げる計画を考えるだけでは不十分である。その目的を達成しつつあるかどうかを判定するため計画(の進行度)を監視しなければならない・・・前線といった確たるものを追跡するのは不可能かもしれませんが、成功か失敗かをほのめかすような変数を見つけることができるだろうと、私は確信していました。そこで我々は、北ベトナムで破壊された目標、ホーチミン・ルートを南下する交通量、捕虜の数、捕獲した兵器の数、敵の戦死者数(ボディ・カウント)などを計測したのです。ボディ・カウントは敵の兵力の損耗を測るものです・・・分岐点を超えると、ベトコンと北ベトナム軍の死傷者数が、彼らの現状維持能力を上回ることにになります。

(出典) マクナマラ(1997:319)



画像出典 (<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AD%E3%83%90%E3%83%BC%E3%83%88%E3%83%BB%E3%83%9E%E3%82%AF%E3%83%8A%E3%83%9E%E3%83%A9>) 最終アクセス2025年5月19日

「ボディ・カウント」と「キル・レシオ」

- ・殺した敵兵の数を「KPI」(Key Performance Indicator)に設定
→「ボディ・カウント」で計測
- ・殺した敵兵の数と味方の死者数の割合
→「キル・レシオ」で戦況を把握

KPIの罠

「ボディ・カウント」を行う兵士の負担

→心理的外傷、前線での麻薬の蔓延

「キル・レシオ」の形骸化

→民間人も「ゲリラ」として報告

→実態とかけ離れた数値の報告

ベトナム戦争の教訓

- ・数値化がもたらす「副作用」
⇒不正、抜け穴、数値を「ハック」する人々...
- ・倫理や規範など、数字が見落とすものを忘れるな
⇒「高齢者の集団自決」(冗談では済まされない)

専門知と政策

- ・専門的な知識があっても失敗する時は失敗する
 - ⇒「ポスト実証主義の政策学」
 - ⇒「現場知」や「実践知」の重視
 - ⇒「民主主義の政策科学」という規範性
- ・政策と研究の間をどのように架橋するか？

「政策助言」の行方を考える

コロナ禍、学会会議……

⇒学術と政治の関係を問う視点の重要性



遥かなるEBPMへの道

- ・専門的な知識の解放はEBPMへの第一歩
 - ⇒ただし、知識が全てを解決するわけではない
 - ⇒助言システム、市民や政治家への教育・・・
- ・専門知と政策のあいだのギャップを考える

ご清聴、ありがとうございました。



HOTEL MAZARIUMの朝食

参考文献

(URLは全て2025年5月19日最終アクセス)

- ・榎孝治(2013)「科学技術イノベーション政策の司令塔機能の現状と課題」『レファレンス』63(11)、99-121頁
- ・総務省国際戦略局(2019)『科学技術政策の動向について』
(https://www.soumu.go.jp/main_content/000635373.pdf)
- ・統合イノベーション戦略推進会議(2024)『学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針』
(https://www8.cao.go.jp/cstp/oa_240216.pdf)
- ・内閣府(2018)『統合イノベーション戦略』
(https://www8.cao.go.jp/cstp/togo_honbun.pdf)
- ・内閣府(2024)『日本の学術論文等のオープンアクセス政策について』
(https://www8.cao.go.jp/cstp/oa_houshin_setsumei.pdf)
- ・林和弘(2018)「統合イノベーション戦略におけるオープンサイエンス」『STI Horizon』4(3)、42-47頁
- ・マクナマラ, R.(1997)『マクナマラ回顧録』仲晃(訳)、共同通信社
- ・山谷清志監修・南島和久編著(2025)『科学技術政策とアカウントビリティ』晃洋書房